

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語発達障害Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 木曜1, 2限	教室名	4校舎301教室
担 当 教 員	松浦雄史	実務経験とその関連資格	言語聴覚士として肢体不自由児通園施設、重症心身障害者施設で脳性麻痺児(者)のリハビリを実施。			
《授業科目における学習内容》						
脳性麻痺という障害の概要を学び、脳性麻痺に伴う摂食嚥下障害およびコミュニケーション障害の評価やリハビリテーションを具体的な症例を通して理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
言語聴覚療法シリーズ12 改訂言語発達障害Ⅲ 笹井新一朗編著						
《授業外における学習方法》						
毎回の授業に小テストを実施するので、授業内容を復習すること。						
《履修に当たっての留意点》						
脳性麻痺という障害はイメージしにくい。脳性麻痺はどのような障害か。また摂食嚥下やコミュニケーションにどのような障害が伴ってくるのか。実際の症例を多数提示し、受講生自身が具体的に考えながら学ぶ授業としていく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児期の運動発達を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	乳児期の運動発達について学び、正常運動発達の順序性や原始反射について理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺の定義と原因を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺の定義やその原因、リスクファクターについて学び、脳性麻痺の概要を理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺の診断とタイプ別の特徴を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺の診断基準、タイプ別の特徴について学ぶ。タイプ別の特徴は、動画を見ながら学び、具体的な臨床像を理解する。			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児の運動の特徴と合併症を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の運動の特徴と合併症について学ぶ。脳性麻痺児の運動を促通する手技を実技を通して学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児の療育と、障害受容を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと	
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の療育と、それぞれのライフステージにおける支援について学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺のリハビリテーションを理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺のリハビリテーションについて学び、口腔領域の運動を促通する手技を、実技を通して学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児の摂食嚥下の特徴を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の摂食嚥下の特徴について、タイプ別に動画を見ながら学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児の摂食嚥下障害の評価と支援を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の摂食嚥下障害について、症例を見ながら学び、具体的な支援を検討する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児の言語発達を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の言語発達について、正常な乳児の言語発達と平行して学び、その特徴を理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児のコミュニケーションの特徴と、AACを理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の発声発語およびコミュニケーションの特徴を理解し、AACを用いたコミュニケーション支援について理解する。		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	アテトーゼ型脳性麻痺のコミュニケーション支援を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	アテトーゼ型脳性麻痺の言語・コミュニケーションについて、症例を通して学び、支援について検討する。		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	重度脳性麻痺児のコミュニケーションの特徴を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	重度脳性麻痺児のコミュニケーションの特徴について、症例を通して学び、支援について検討する。		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児の言語・コミュニケーションの評価について理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の言語・コミュニケーションの評価について学び、リハビリのプログラムの立案ができるようになる。		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	障害児のコミュニケーションと活動参加を理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	症例を通して、障害児のコミュニケーションと活動への支援について学び、課題を検討する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児のコミュニケーションを人との関係性を含めて、包括的に理解し、説明できるようになる。	PC、スピーカー	事前配布資料に目を通しておくこと
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺児のコミュニケーションを人との関係性という観点から検討し、理解する。		